章	項目	特記事項
③ 土工事	① 埋戻し及び盛土	(3.2.3) ※表3.2.1による種別 ・Ａ種　適用場所（　　） ⊙Ｂ種　適用場所（　基礎、地中梁　） ・Ｃ種　適用場所（　　） 土質（　　）　受渡場所（　　） ・Ｄ種　（細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする） 適用場所（　　） ・材料及び工法　材料（　　）　工法（　　）
	② 建設発生土の処理	(3.2.5) ※「建設発生土情報交換システム」を活用し近隣の受入先を調査の上、搬出距離、受入条件等が確認できる資料を監督職員に提出し、協議により搬出先を決定する。搬出後、監督職員へ搬出先の受入を確認できる資料を提出する。なお、次の運搬に相当する経費を見込んでいる。 搬出距離（　　）　ＤＩＤ区間　（　　） 仮置場　（　　） ・場外指定場所に搬出する。搬出後、監督職員へ搬出先の受入を確認できる資料を提出する。 搬出場所（　　） 受入条件（　　） 仮置場　（　　） ・場内指定場所に敷き均し（　　） ・場内指定場所に堆積 ・受入地未定につき別途協議する　(3.3.3) ⊙場外搬出適切処理
	③ 山留めの撤去	鋼矢板等の抜き後の処理　※直ちに砂等で充填する　・ 山留めの存置　・行う（存置範囲　※図示）・
	④ 建設汚泥の処理	地盤改良による汚泥は発生しないものとし、発生した場合は、監督職員との協議により処理方法及び搬出先を決定する 処理対象　・図示 処理方法　⊙再生資源化施設へ搬出 「建設汚泥の再利用に関するガイドライン(平成18年6月12日国土交通省)」により建設汚泥の発生量の抑制に努めること。
	5　現場透水試験	現場透水試験（　・　行う　　⊙行わない　） ・　現場透水試験結果を、山留工事に活用する。

章	項目	特記事項
④ 地業工事	① 支持地盤等	(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4、5)(4.4.4)(4.5.5、6) ⊙杭基礎 支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） ⊙図示による（　S11　）　・ ・直接基礎 支持地盤の位置及び土質（基礎底盤の位置含む） ・図示による（　　）　・ 試験掘り（根切り底の状態の確認等） ・行わない ・行う　　位置等　・図示による（　　）　・ ・地盤の載荷試験 載荷試験の方法　・地盤工学会基準　JGS 1521による 試験の位置、載荷荷重　・図示による（　　）　・
	② 既製コンクリート杭地業	(4.2.2)(4.3.1、3～6、8) 種類等 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭) ⊙外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) SC杭の鋼管材料　⊙SKK400　・SKK490 寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分） 試験杭 上杭 中杭 下杭 本杭 上杭 中杭 下杭 種類 / コンクリート強度(N/mm2) / 杭径(mm) / 厚さ(mm) / 杭長(mm) / 継手数 / セット数 / 長期設計支持力(kN/本) / 備考 杭先端部形状 ⊙開放形　・半開放形　・閉そく形　・ 工法 ⊙セメントミルク工法 試験杭 試験杭の位置　・図示による（　S-12　）　・ 掘削深さ　⊙図示による（　S-12　）　・ 杭の支持層への根入深さ　⊙図示による（　S-11　）　・ 杭の精度 水平方向の位置ずれ　⊙杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　⊙1/100以内　・ ・特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　) 工法 ⊙プレボーリング拡大根固め工法 ・中堀り拡大根固め工法 ・ 杭周固定液　⊙使用する　・使用しない 試験杭 試験杭の位置　・図示による（　　）　・ 杭の支持層への根入深さ　・図示による（　　）　・ 杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・1/100以内　・ 杭の継手の工法 ・アーク溶接継手 溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法　※認定等を受けた工法 検査　※認定等により定められた項目 施工　※認定をされた施工管理基準による 杭頭の処理等 ・処理しない ・処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ・図示による（　　）　・ 杭頭の中詰め材料 ⊙基礎のコンクリートと同調合のもの　・
	3　鋼杭地業	(4.2.2)(4.3.8)(4.4.3～6) 鋼杭の材料 ・　・ 寸法、継手等 試験杭 上杭 中杭 下杭 本杭 上杭 中杭 下杭 種類 / 杭径(mm) / 板厚(mm) / 杭長(mm) / 継手数 / セット数 / 長期設計支持力(kN/本) / 備考 工法 ・特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　) 工法 ・中堀り拡大根固め工法 ・ 試験杭 試験杭の位置　・図示による（　　）　・ 杭の支持層への根入深さ　・図示による（　　）　・ 杭の精度 水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・1/100以内　・

章	項目	特記事項
4 地業工事		杭の継手の工法 ・溶接継手 形状　・JIS A 5525による　・ 溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・ ・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法　※認定等を受けた工法 検査　※認定等により定められた項目 施工　※認定をされた施工管理基準による 杭頭の処理等 ・処理しない ・処理する 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ・図示による（　　）　・ 杭頭の中詰め材料 ・基礎のコンクリートと同調合のもの　・
	3　場所打ちコンクリート杭地業	(4.2.2)(4.5.1、4～6) 工法 ・アースドリル工法(安定液　※使用する　・使用しない) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490 ・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない） ・ 寸法等 試験杭 本杭 軸径(mm) / 拡底径(mm) / 杭長(mm) / セット数 / 長期設計支持力(kN/本) / 備考 試験杭 試験杭の位置　・図示による（　　）　・ 孔壁の保持状況（孔壁測定） 測定箇所　・試験杭（　　）箇所及び本杭（　　）箇所　・ 杭の支持層への根入深さ　・図示による（　　）　・ 杭の精度 水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・1/100以内　・ 鉄筋の種類 種類の記号 / 呼び径(mm) / 備考 ・SD295A ・SD345 帯筋　・図示による（　　）　・ 鉄筋の最小かぶり厚さ　・100mm　・ 鉄筋かごの補強 ・ ・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する ・ 組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※重ね継手　重ね継手の長さ　・図示による（　　）　・ ・ 主筋の基礎底盤への定着長さ　・図示による（　　）　・ セメントの種類　※高炉セメントB種　・ コンクリートの設計基準強　・図示による（　　）　・ コンクリートの種別　・Ａ種　・Ｂ種　・認定等の内容による スランプ　・　※18cm 構造体強度補正 ※3N/mm2　・図示による（　　）　・評定等の内容による
	④ 砂利地業	(4.6.2、3) 材料　⊙再生クラッシャラン　・切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ　※60mm　⊙ 適用範囲 ⊙基礎下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による（　　）

工事名称	特記仕様書2	設計	担当			一級建築士　登録　169665 号	向　井　照　雄　建　築　事　務　所	A-02
令和6・7年度　甲賀北地区津波避難施設新築工事	A3:A2x70%	訂正	意匠	構造	設備	向　井　照　雄	三重県志摩市磯部町迫間 409-3　電話 0599-55-0157	